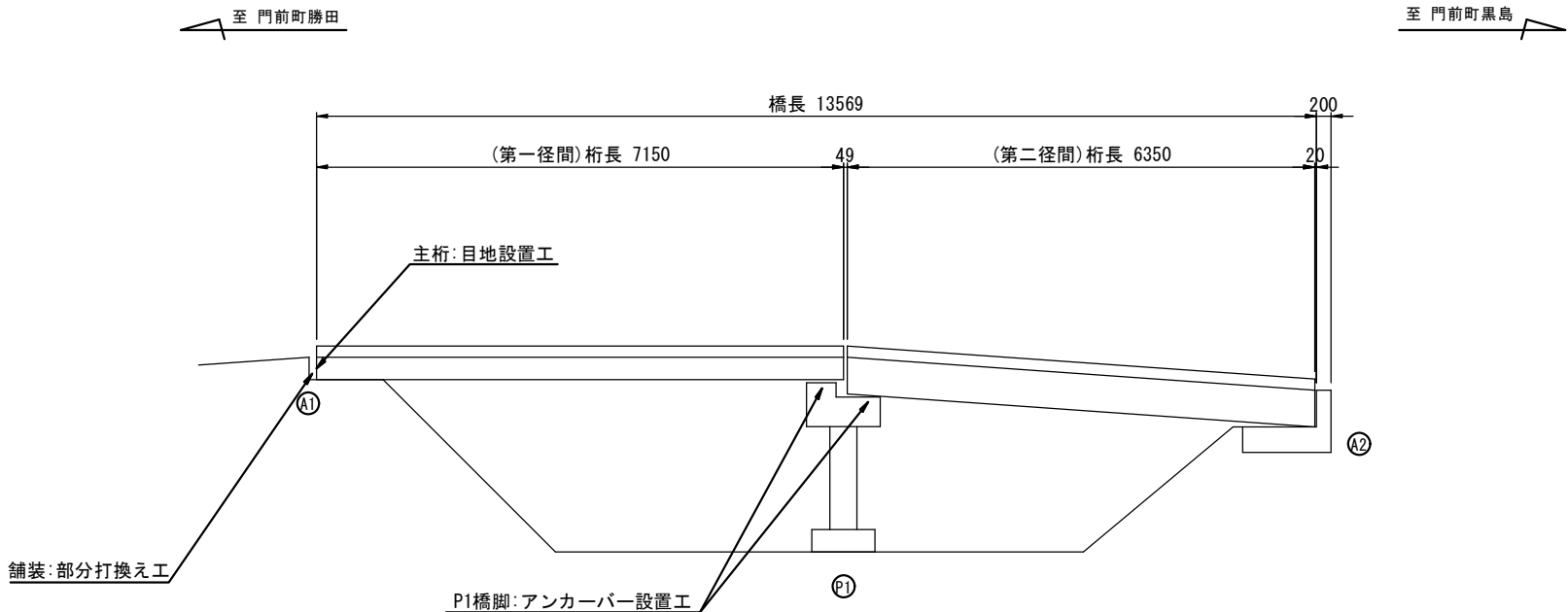
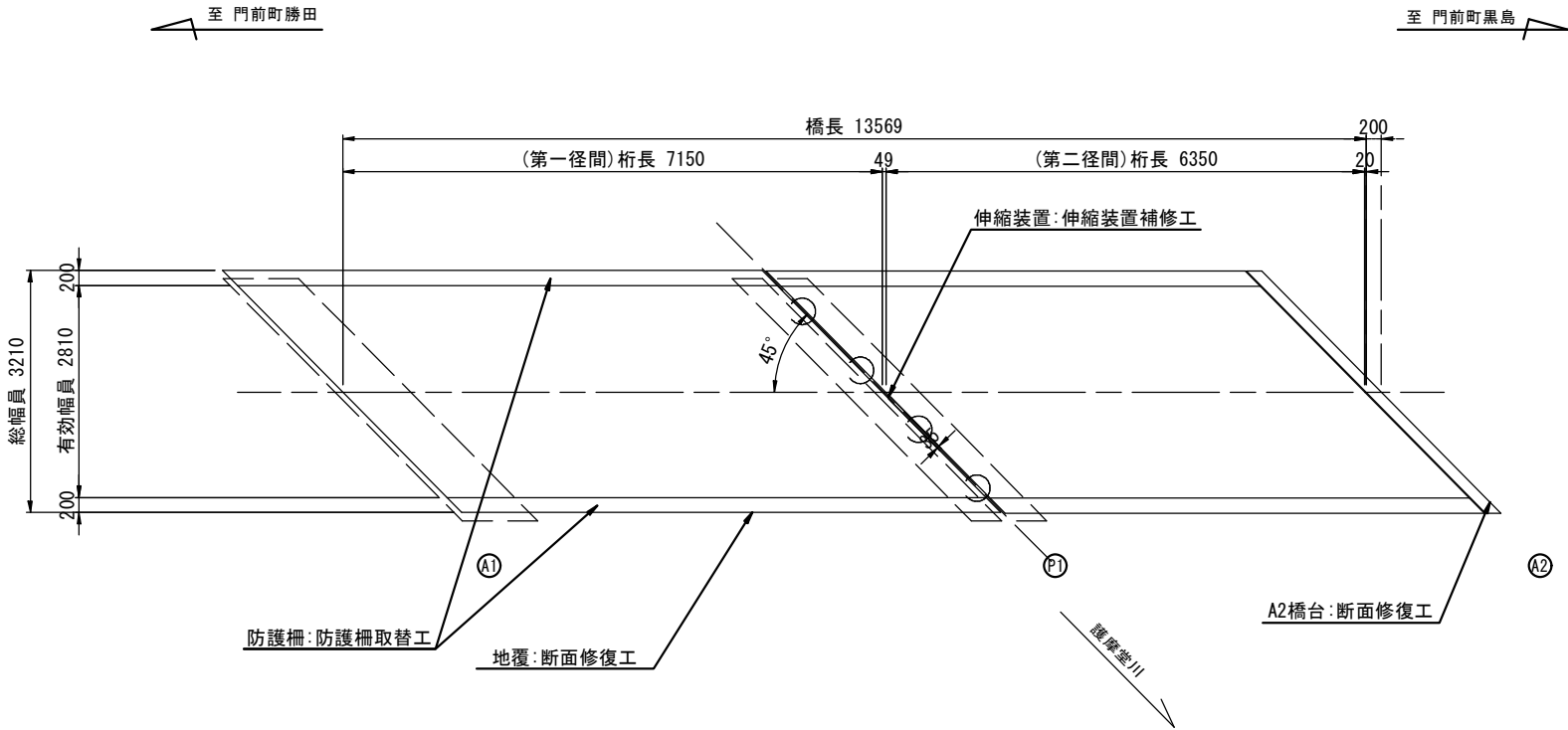


道下橋 橋梁一般図(補修工)

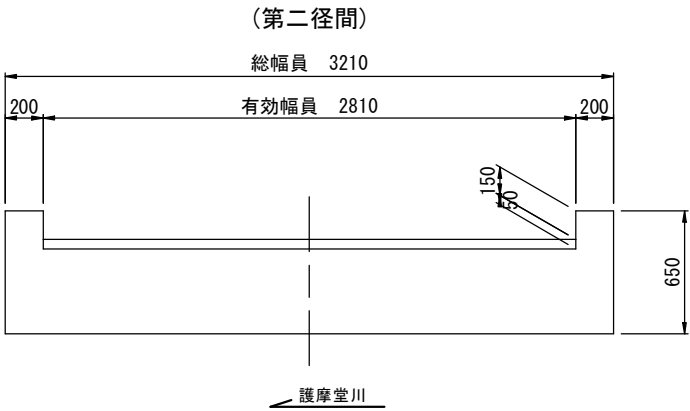
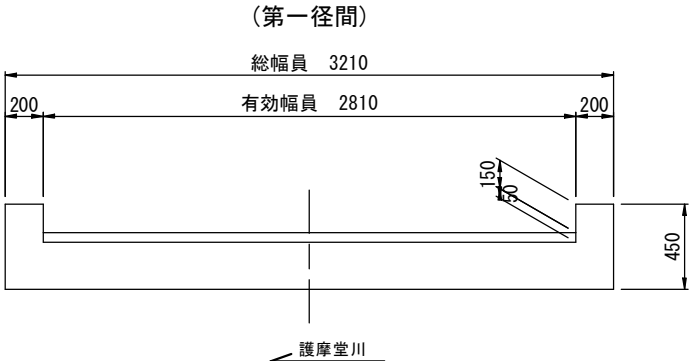
側面図
S=1:50



平面図
S=1:50



断面図
S=1:20



補修概要

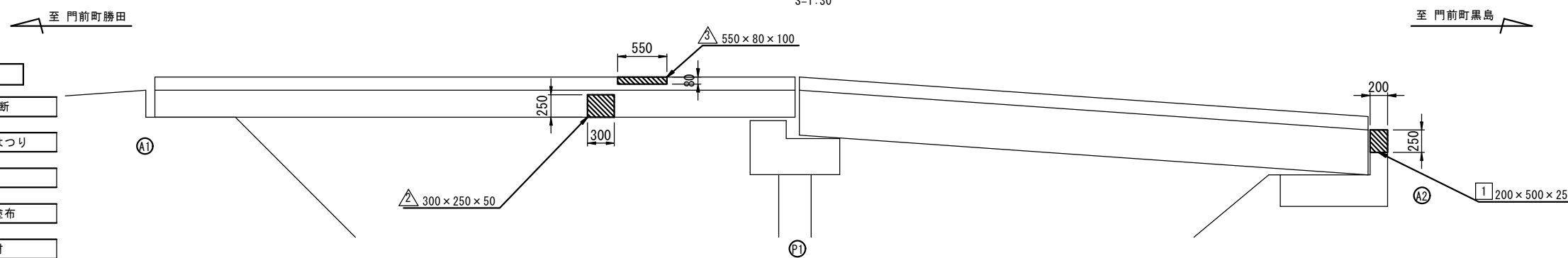
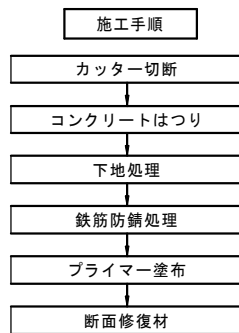
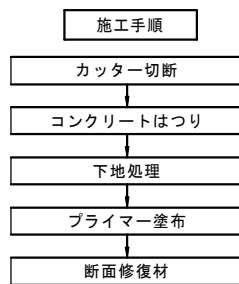
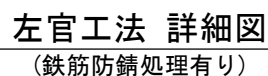
補修項目	補修概要
A2橋台・地覆	断面修復工
舗装	部分打換え工
伸縮装置(P1)	伸縮装置補修工
P1橋脚	アンカーバー設置工
防護柵	防護柵取替工
主桁	目地設置工

橋梁諸元

橋梁名	道下橋(とうげばし)
路線名	道下鉄川線
架橋場所	輪島市門前町道下 地内
交差物件	護摩堂川
架設年月	昭和34年(1959年)3月
設計荷重	2等橋(TL-14)
適用示方書	不明
構造形式	2径間RC中実床版橋
橋長	L=13.53m
桁長	L=7.15m+6.35m
幅員構成	0.20m+2.81m+0.20m=3.21m
斜角	45° 00' 00"
橋台形式	その他
橋脚形式	パイルベント橋脚
基礎形式	不明

令和8年度	
工事名	令和6年災 第9923号 市道道下鉄川線 道下橋 橋梁災害復旧工事
路線名	市道道下鉄川線
箇所	輪島市門前町道下 地内
図名	道下橋 橋梁一般図(補修工)
縮尺	図示
図面番号	1 / 7 枚の内
輪島市	

側面図(上流側)
S=1:30

☐ 左官工法(鉄筋露出無し) 補修数量[illegible]

△左官工法(鉄筋露出有り) 補修数量

位置	No.	箇所数	延長 (mm)	幅 (mm)	深さ (mm) (想定)	補修面積 (m ²)	補修体積 (m ³)
地覆	1	1	150	100	100	0.015	0.002
	2	1	300	250	50	0.075	0.004
	3	1	550	80	100	0.044	0.004
合計							0.010

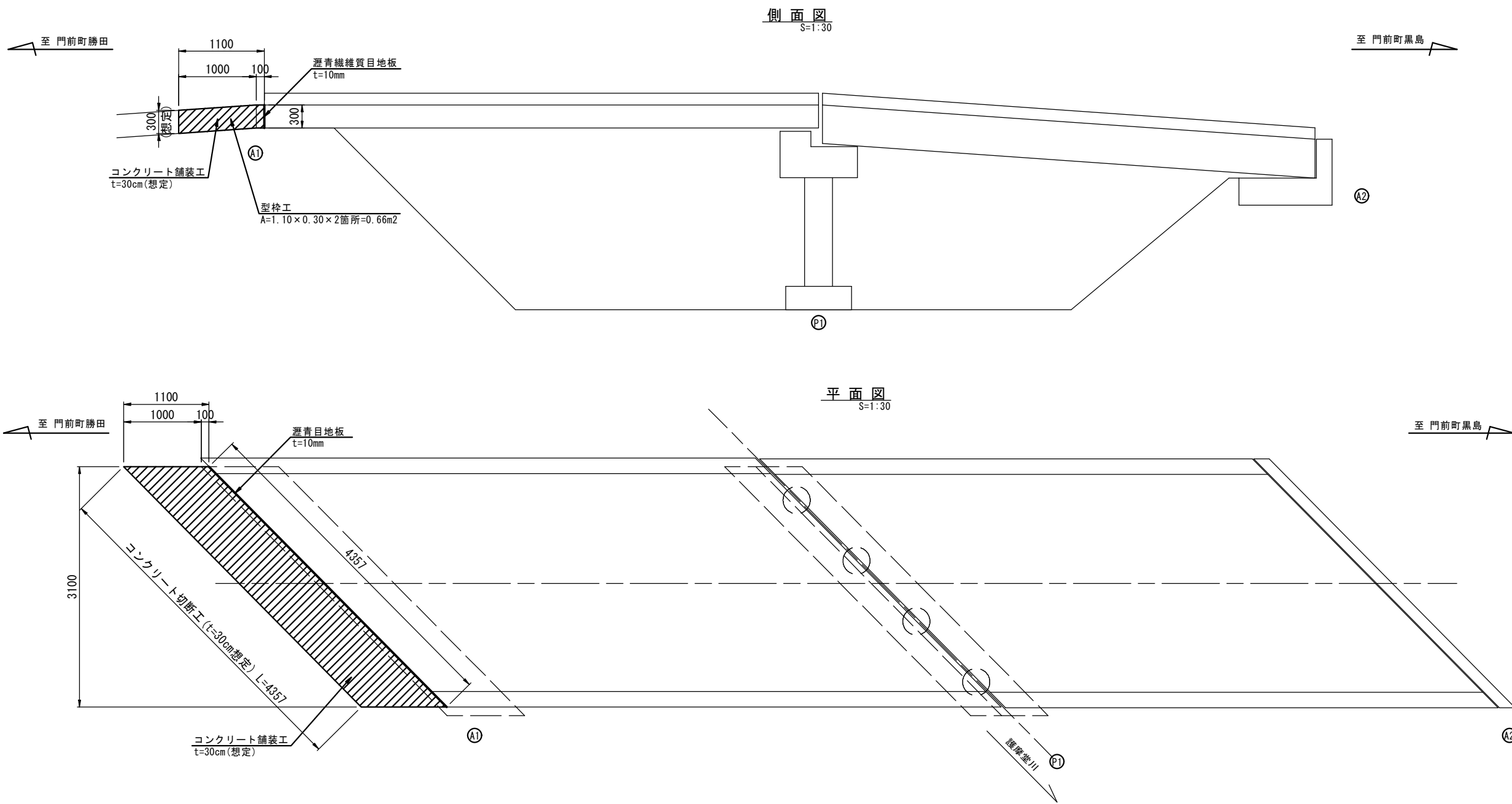
凡 例		記号
	断面修復工 左官工法(鉄筋露出無し)	
	断面修復工 左官工法(鉄筋露出有り)	

注記

- ※1. 施工前に現地寸法、補修範囲及び数量を確認し、協議のうえ施工すること。
- ※2. 断面修復工のカッター工は現地確認のうえ、作業の有無を決定し、鉄筋を傷つけない様に留意すること。
- ※3. 断面修復時、左官工法による左官作業は既設コンクリート面(はつり面)にプライマーを塗布し、空隙が残らないように施工すること。
なお、かぶり不足箇所は厚塗りをするなど、かぶり厚さ30mmを確保すること。
- ※4. 断面修復工で重ね塗りを行う場合は重ね塗りの時間間隔や断面修復部の凝結状態などを考慮して行うこと。
- ※5. 使用する断面修復材は、設計基準強度40N/mm²以上の強度の修復材を使用すること。
- ※6. 気象状況の把握に努め、悪天候時に作業の中止等の判断すること。

令和 8 年度		
工 事 名	令和6年災 第9923号 市道道下饒川線 道下橋 橋梁災害復旧工事	
路 線 名	市道道下饒川線	
箇 所	輪島市門前町道下 地内	
図 名	道下橋 補修図その1 橋梁補修工	
縮 尺	図 示	
図面番号	2 / 7 枚 の 内	
輪 島 市		

道下橋 補修図その2
舗装工(舗装部分打換え工)



補修数量

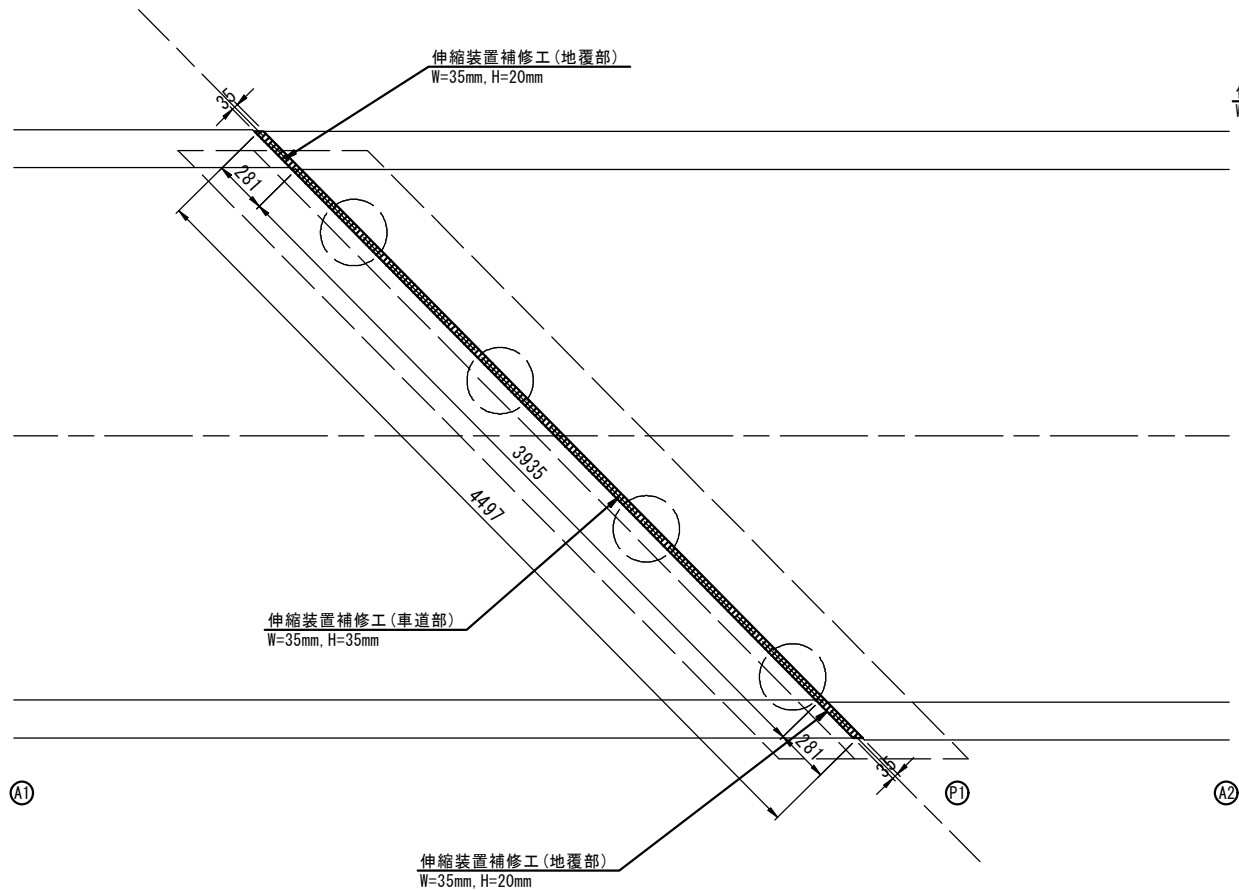
工種・種別	細別	規格	数量	単位
舗装工	舗装部分打換え工	Co舗装切断 (t=30cm想定)	4.4	m
		Co舗装取壊し (t=30cm想定)	3.10	m ²
		Co舗装 (t=30cm想定)	3.41	m ²
		型枠工	0.66	m ²
目地工	目地設置工	瀝青繊維質目地板 (t=10mm)	1.31	m ²

注記
※1. 施工前に現地寸法、補修範囲及び数量を確認し、協議のうえ施工すること。
※2. 図中詳細寸法は現地検測のうえ決定すること。
※3. 気象状況の把握に努め、悪天候時に作業の中止等の判断すること。
※4. 舗装切断の厚みは想定のため、舗装切断時に厚みを確認し、施工すること。

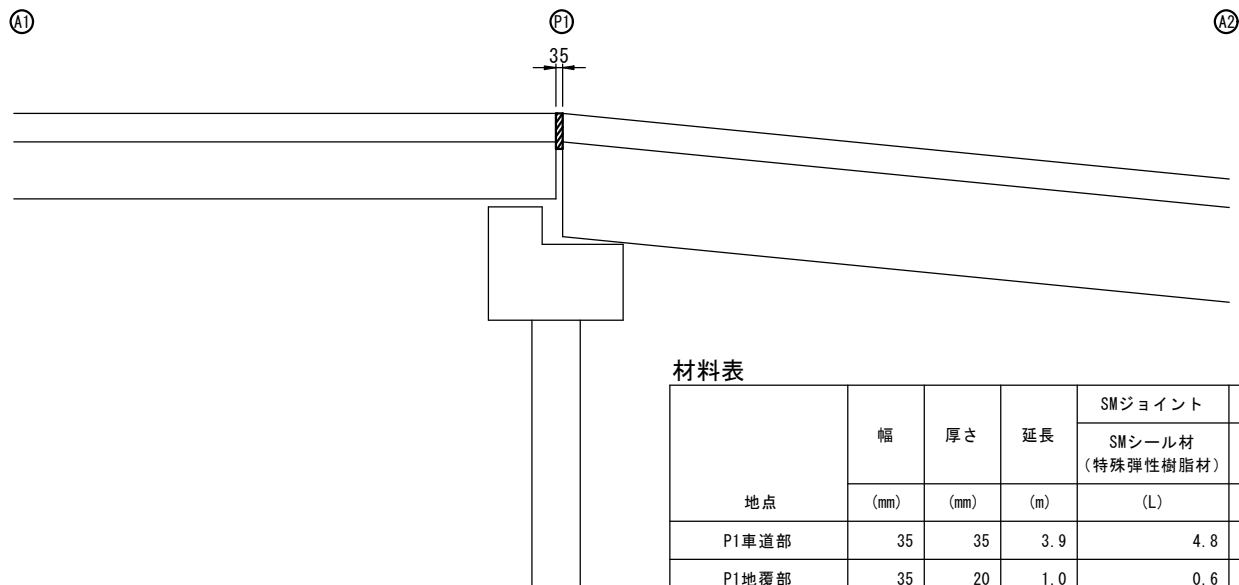
令和8年度	
工事名	令和6年災 第9923号 市道道下鉄川線 道下橋 橋梁災害復旧工事
路線名	市道道下鉄川線
箇所	輪島市門前町道下 地内
図名	道下橋 補修図その2 舗装工
縮尺	図示
図面番号	3 / 7 枚の内
輪島市	

道下橋 補修図その3
橋梁付属物工(伸縮装置補修工)

平面図
S=1:20



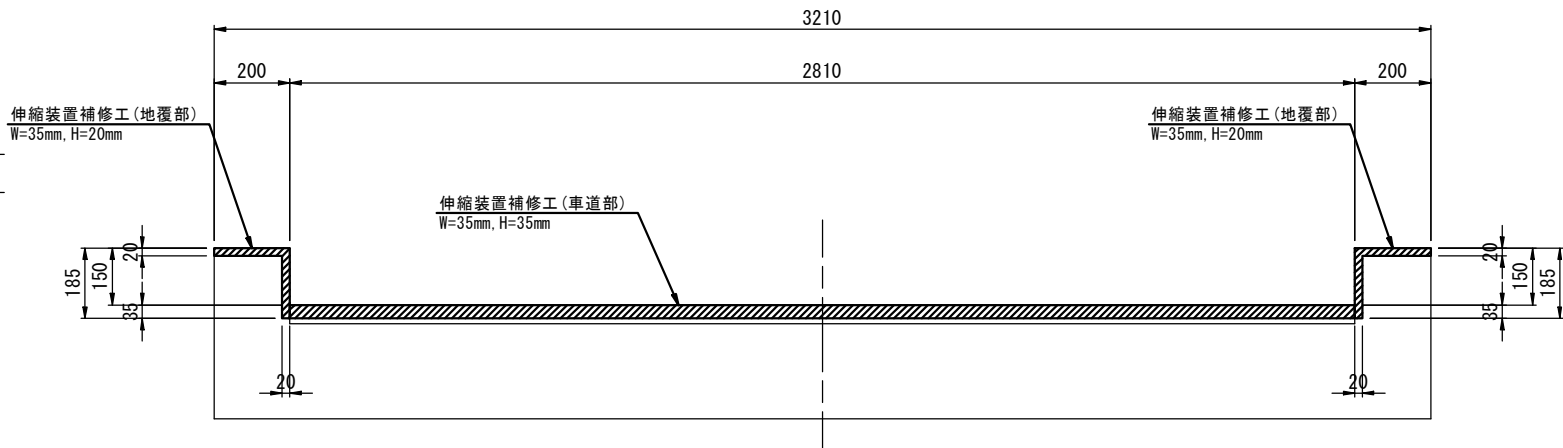
側面図
S=1:20



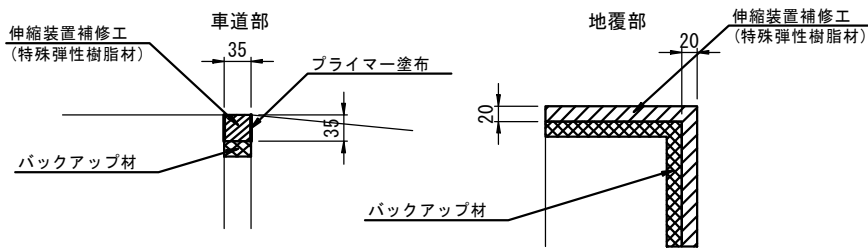
材料表

地点	幅 (mm)	厚さ (mm)	延長 (m)	SMジョイント	プライマー	バックアップ材
				SMシーラ材 (特殊弾性樹脂材)	1液ウレタン系 プライマー	
	(mm)	(mm)	(m)	(L)	(mL)	(m)
P1車道部	35	35	3.9	4.8	41	3.9
P1地覆部	35	20	1.0	0.6	5	0.9
合計			4.9	5.4	46	4.8

断面図
S=1:10



伸縮装置補修工 詳細図
S=1:5



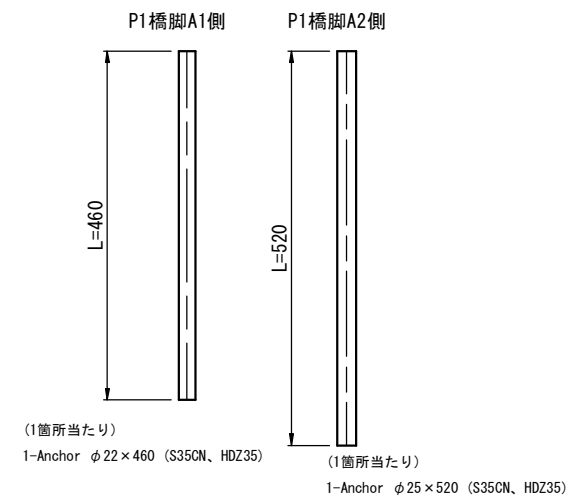
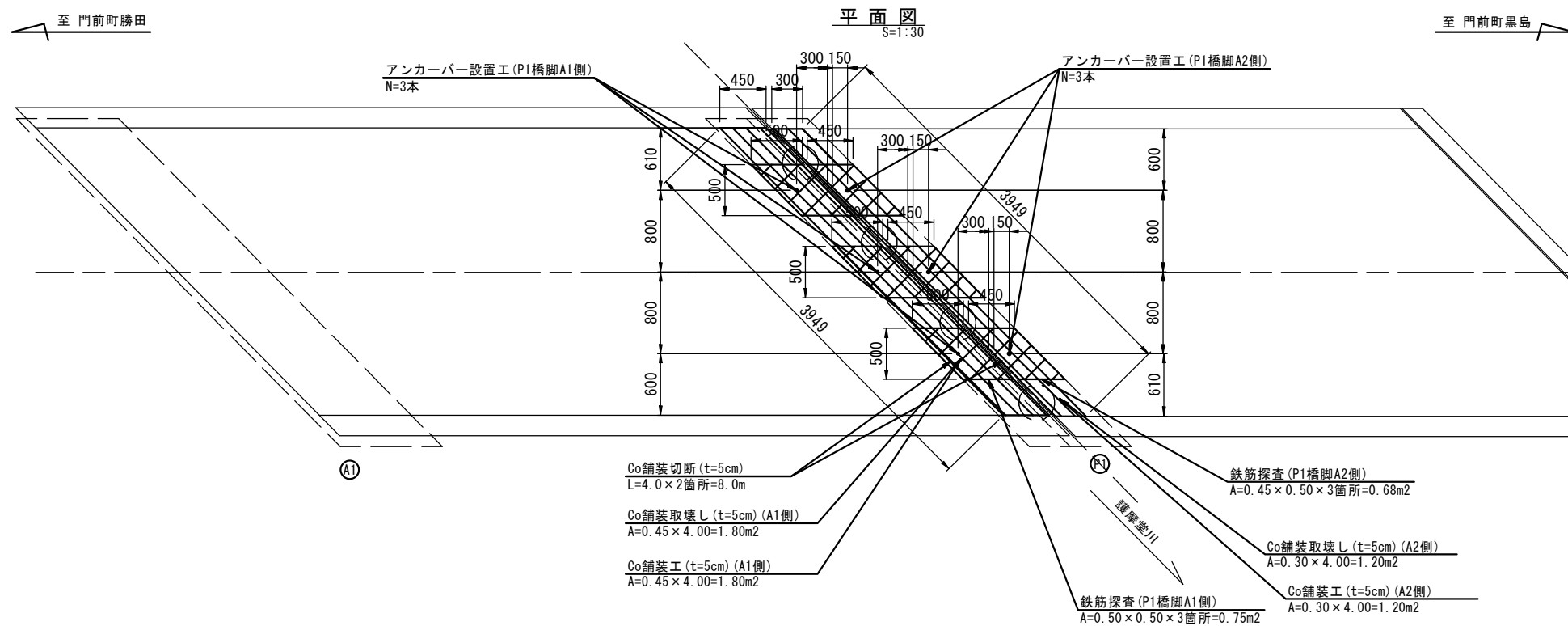
工程表

工程順	工 程	使用材料	用途・備考
1	下地清掃処理	養生テープ、養生シート	既設ゴムや土砂を撤去後、目地の側面をマルチツール、グラインダー（サンダー）等を用いて、平滑に仕上げる。 充填箇所の接着面に残った土砂、ゴミ、埃、油分、錆などは接着不良の原因となるため、溼潤している場合は十分に乾燥させる。 側面の金属面に錆がある場合、レーザークリーニング等（1種ケレン相当）でケレンを行い、錆を除去する。 コンクリート面に、ひび割れ、ぐらつき、欠損部がある場合は、事前に補修しておく。 清掃完了後、充填箇所の周囲を養生テープでマスキングする。
2	プライマー塗布	SMプライマー	原液塗布（塗布量100～200ml/m ² ） 塗り残しがないように均一に塗布する。
3	目地間隙間等、 すきま箇所の処理	バックアップ材	間隙、重ね等のすきま箇所については必要に応じ、上から押して凹まないように、きつく埋め込む。スポンジ状のバックアップ材は、設置箇所の幅の約2倍のものを、半分に圧縮して埋め込むようにする。
4	SMシーラ材充填	主剤、硬化剤、添加剤	事前に、硬化剤の袋の上から、指で押してみ、粉状になっていないかを確認。 粉状になっていたら、事前に50℃程度の温水につけて、溶かしておくこと。 材料は残らないように十分に混ぜ合わせる。
5	表面保護	砂（珪砂5号推奨）または石粉	材料の充填後、表面に散布する。
6	養生テープはずし		シーラ材塗布面に養生材料が付着しないように、慎重に外すこと。
7	開放		充填完了から1～3時間経過後、開放。 （硬化時間は気温により変動する） 歩道部では、靴による踏み抜きを防ぐため、1～2日間、板を置いて養生する。

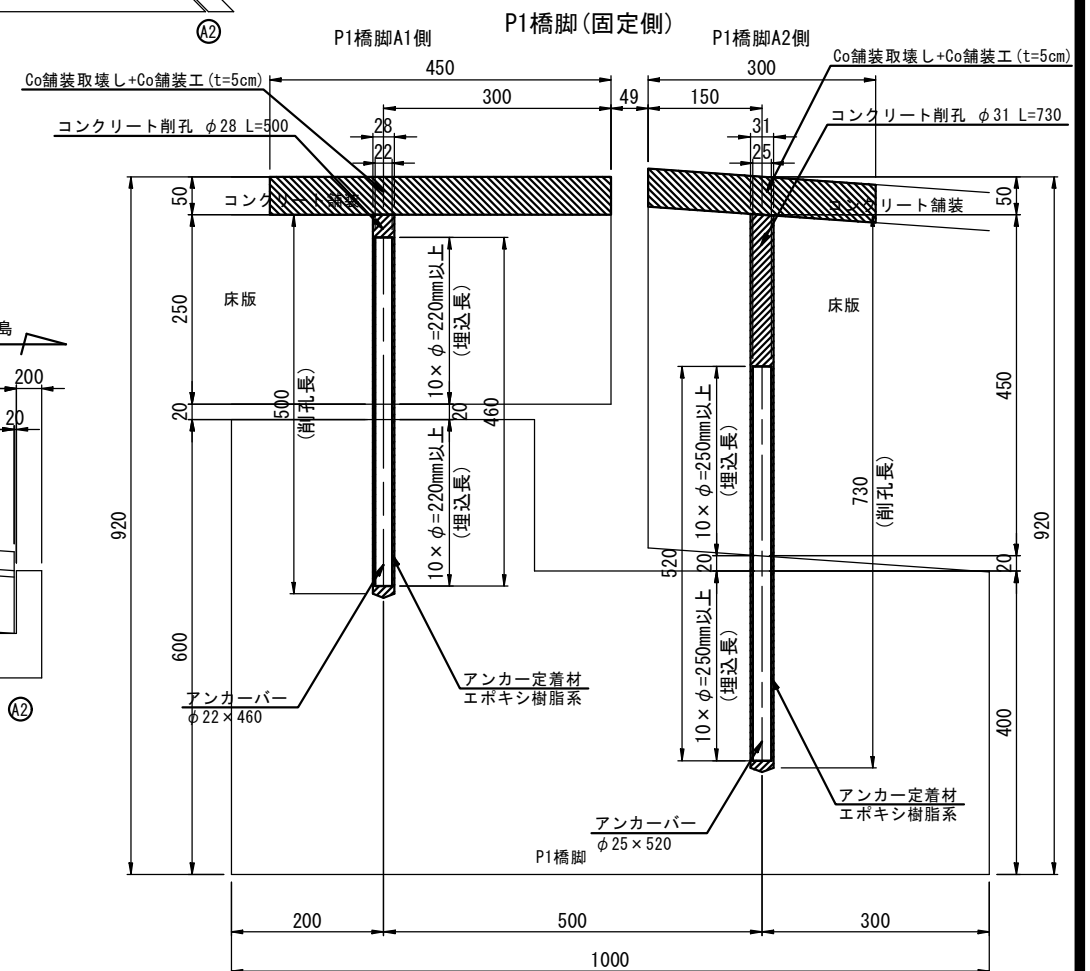
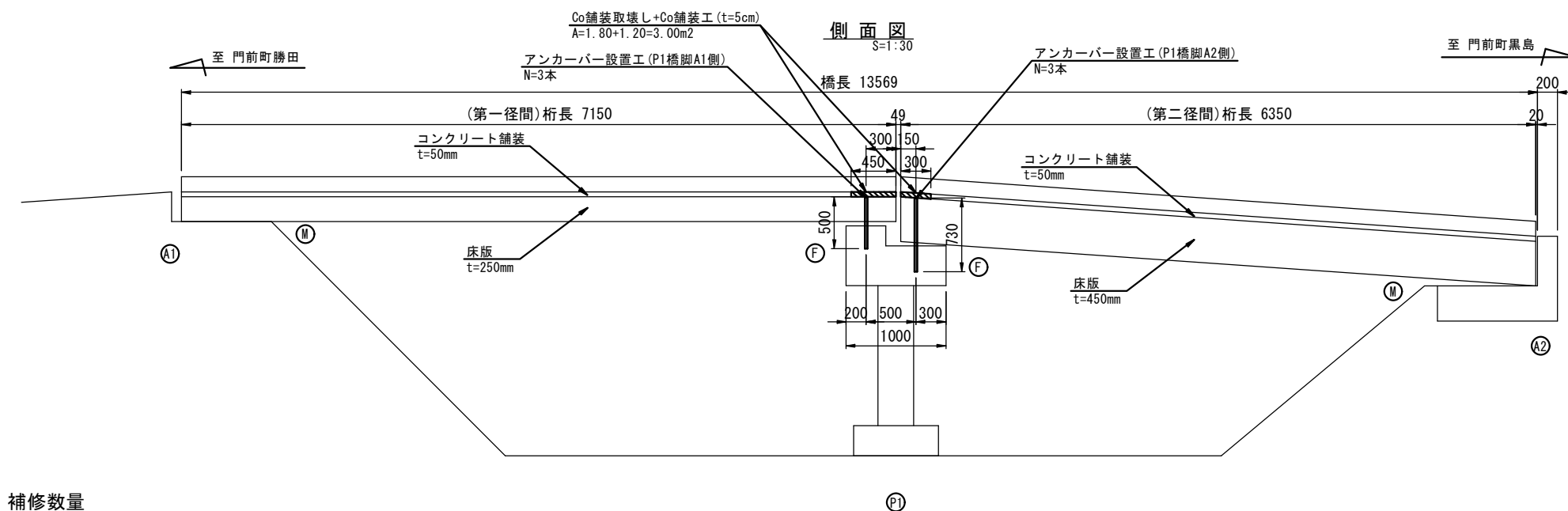
注記
※1. 施工前に現地寸法、補修範囲及び数量を確認し、協議のうえ施工すること。
※2. 図中詳細寸法は現地検測のうえ決定すること。
※3. 気象状況の把握に努め、悪天候時に作業の中止等の判断すること。

令和8年度	
工 事 名	令和6年災 第9923号 市道道下鉄川線 道下橋 橋梁災害復旧工事
路 線 名	市道道下鉄川線
箇 所	輪島市門前町道下 地内
図 名	道下橋 補修図その3 橋梁付属物工
縮 尺	図 示
図 面 番 号	4 / 7 枚 の 内
輪 島 市	

橋梁付属物工(アンカーバー設置工)



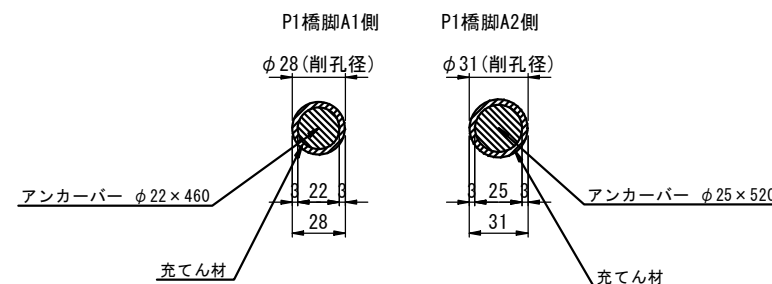
細則



補修数量

工種・種別	細 別	規 格	数量	単位
橋梁付属物工	アンカーバー設置工	アンカー工	6	本
		アンカーバー φ22×460	3	本
		アンカーバー φ25×520	3	本
		コンクリート削孔(削孔径φ28 削孔長500mm)	3	本
		コンクリート削孔(削孔径φ31 削孔長730mm)	3	本
		アンカー定着材(エポキシ樹脂系)	1.8	kg
		鉄筋探査	1.5	m ²
		Co舗装切断(t=5cm)	8.0	m
		Co舗装取壊し(t=5cm)	3.00	m ²
		Co舗装工(t=5cm)	3.00	m ²

157



※1. 施工前に現地寸法、補修範囲及び数量を確認し、協議のうえ施工すること。

※2. 図中詳細寸法は現地検測のうえ決定すること。

※3. 気象状況の把握に努め、悪天候時に作業の中止等の判断すること。

※4. アンカー削孔は、事前に鉄筋探査機などで鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないように十分留意すること。

※5. アンカーバーは溶融亜鉛めっき処理(HDZ35)とする。

※6. アンカーバーは支承縁端距離を確保する。

※7. アンカーバーの定着長(埋込長)を確保する。

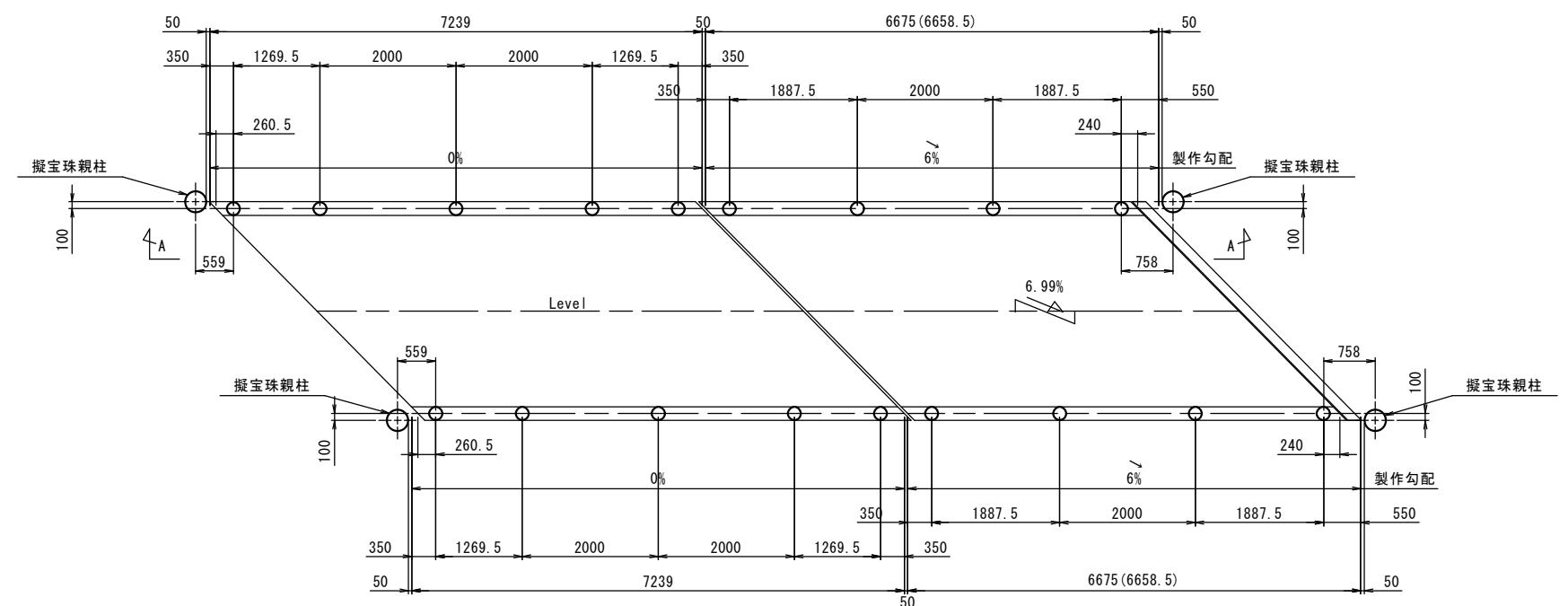
※8. PI橋欄の橋座面の隙間が大きい場合、捨て型枠等により養生を行い、アンカー定着材が漏れ出ないようにすること。

令和 8 年 度	
工 事 名	令和6年災 第9923号 市道道下鉄川線 道下橋 橋梁災害復旧工事
路 線 名	市道道下鉄川線
箇 所	輪島市門前町道下 地内
図 名	道下橋 補修図その4 橋梁付属物工
縮 尺	図 示
図面番号	5 / 7 枚 の 内
輪 島 市	

道下橋 高欄図(参考図)(1)

平面図 S =1/50

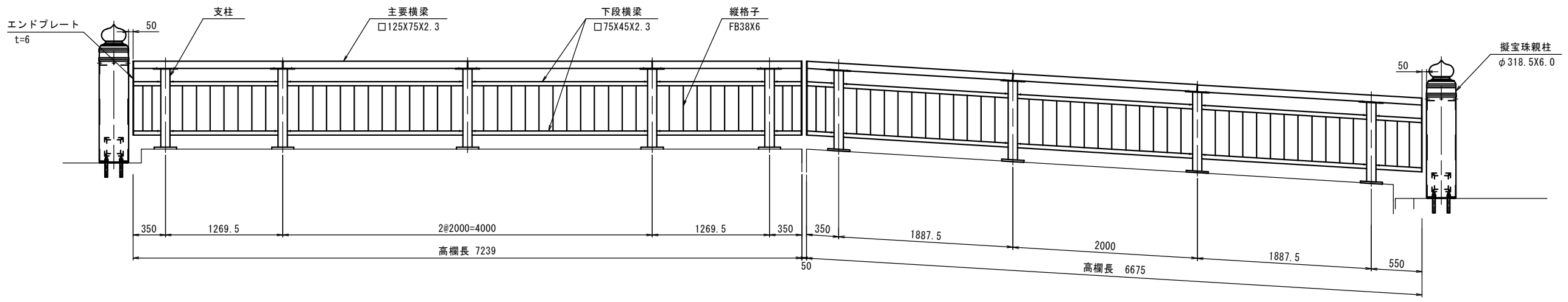
寸法線は主要横梁中心線上で実長を示す
()内寸法は水平長を示す



高欄取付図 S =1/25

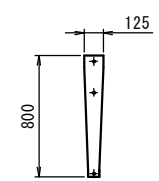
A - A 矢視

※縦格子間隔は150mm以下とする。



エンドプレート詳細

(脱着式)

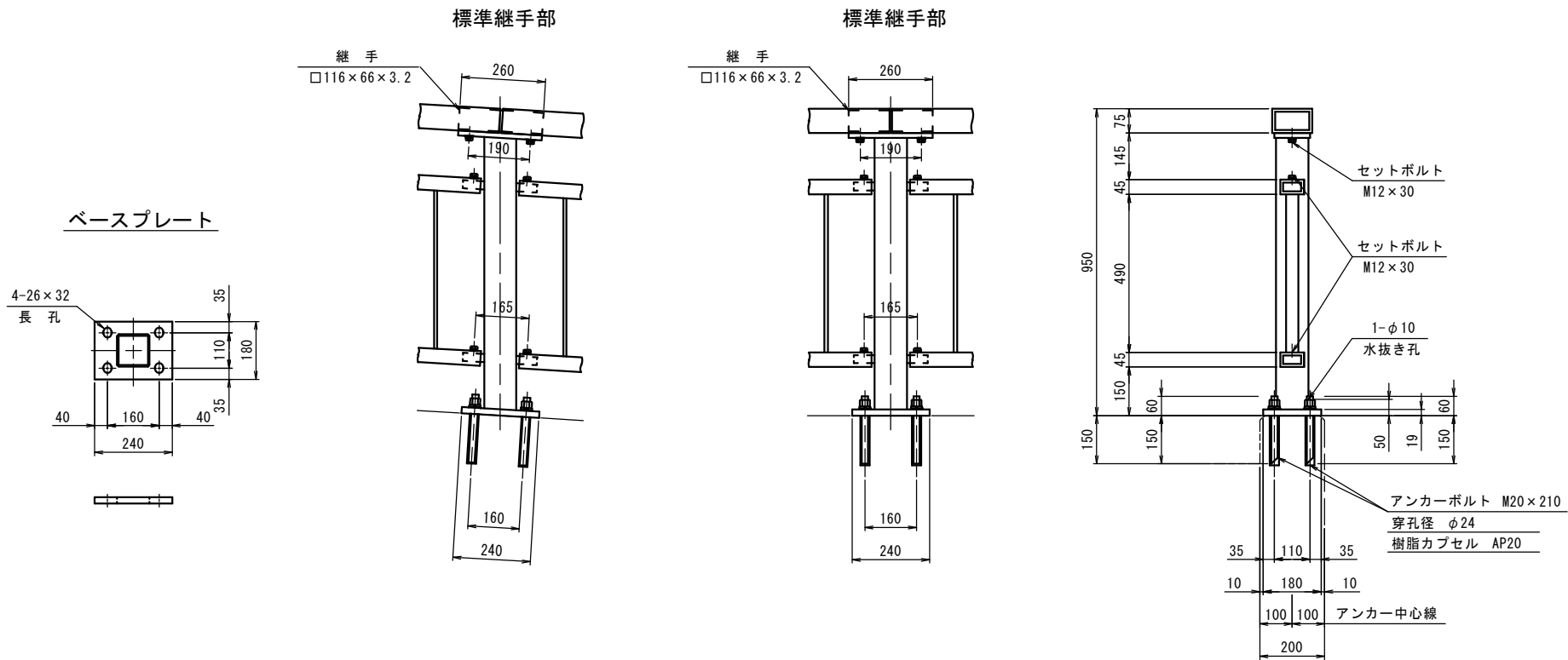


令和8年度	
工事名	令和6年災 第9923号 市道道下鉄川線 道下橋 橋梁災害復旧工事
路線名	市道道下鉄川線
箇所	輪島市門前町道下 地内
図名	道下橋 高欄図(参考図)(1)
縮尺	図示
図面番号	6 / 7 枚の内
輪 島 市	

道下橋 高欄図(参考図)(2)

高欄詳細図

S =1/10



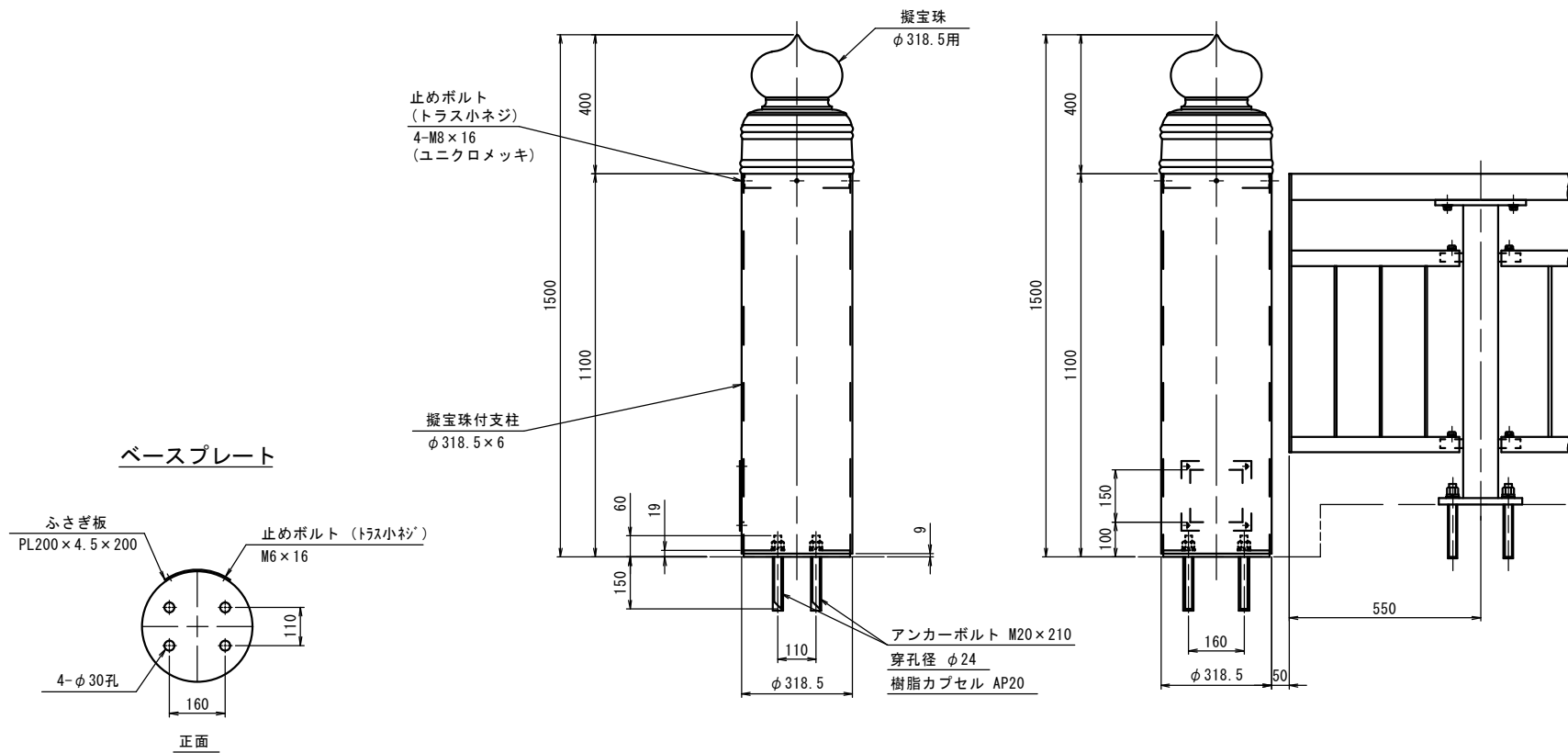
材料表

品名	寸法	材質	数量	単重	重量	備考
支柱	□100X100X4.5	STKR400	18	20.2 Kg/本	364	
主要横梁	□125X75X2.3X2429	STKR400	2	6.95 Kg/m	34	
主要横梁	□125X75X2.3X2229	STKR400	2	6.95 Kg/m	31	
主要横梁	□125X75X2.3X1995	STKR400	6	6.95 Kg/m	83	
主要横梁	□125X75X2.3X1611	STKR400	4	6.95 Kg/m	45	
下段横梁	□75X45X2.3X1880	STKR400	12	4.06 Kg/m	92	
下段横梁	□75X45X2.3X1767.5	STKR400	8	4.06 Kg/m	57	
下段横梁	□75X45X2.3X1149.5	STKR400	8	4.06 Kg/m	37	
下段横梁	□75X45X2.3X484	STKR400	4	4.06 Kg/m	8	
下段横梁	□75X45X2.3X284	STKR400	12	4.06 Kg/m	14	
継手	□116X66X3.2X260	SS400	10	9.08 Kg/m	24	
エンドプレート	PL125X6X800	SS400	8	4.71 Kg/コ	38	脱着式
縦格子	PL38X6X490	SS400	162	0.88 Kg/本	143	
セットボルト	M12X30 (B.W.SW)	4.8以上	36	0.05 Kg/本	2	
セットボルト	M12X30 (B.N.W.SW)	4.8以上	72	0.07 Kg/本	5	
アンカーボルト	M20X210 (B.N.W.SW)	4.6以上	72	0.62 Kg/本	45	ケミカルアンカー
Σ =					1022 kg	
高欄長 = 27828						
R加工 = 0						
勾配エキストラ = 13350						
突合せ加工 = 0						

高欄詳細図

S =1/10

擬宝珠親柱



材料表

品名	寸法	材質	数量	単重	重量	備考
擬宝珠親柱						
擬宝珠付支柱	φ318.5×6×1091	STK400	4	50.45 Kg/本	202	
ベースプレート	PL305.5×19	SS400	4	10.9 Kg/コ	44	
ふさぎ板	PL200×4.5×200	SS400	4	1.41 Kg/コ	6	
止めボルト	M6×16	SUS	16	0.01 Kg/本	-	トラス小ネジ
擬宝珠	φ318.5用	BC6	4	29.5 Kg/コ	118	
止めボルト	M8×16	4.8以上	16	0.03 Kg/本	-	トラス小ネジ
アンカーボルト	M20X210 (B.N.W.SW)	4.6以上	16	0.62 Kg/本	10	ケミカルアンカー
Σ =					380 kg	
擬宝珠親柱 = 4						

注記

1. 表面処理 — — 本体は亜鉛めっき後塗装 (塗装色:05-40V)
ボルト類は亜鉛めっき
2. 支柱の製作勾配 — — 図示
3. 改良の為、一部仕様変更する場合がある。
4. 塗装色は05-40Vとするが、制作前に地元住民との確認により決定する。

令和8年度	
工事名	令和6年災 第9923号 市道道下鉄川線 道下橋 橋梁災害復旧工事
路線名	市道道下鉄川線
箇所	輪島市門前町道下 地内
図名	道下橋 高欄図(参考図)(2)
縮尺	図示
図面番号	7 / 7 枚の内
輪島市	